

インタビュー	P.1
次世代に期待され、選択される大学へ 1.1の改善を積み重ねて上を目指す改革を進める 学校法人 工学院大学 理事長 後藤治氏	
★Report	P.4
神田外語大学に新施設8号館(KUIS8)が完成 自立学習支援機能とICT技術が融合、新たな 最先端環境を実現!	
★Topics よき学校建築巡り1	P.8
ヴォーリス建築、関西学院大学上ヶ原キャンパス、 神戸女学院大学を訪問して	
★NEWS	P.9
○東京音楽大学(豊島区)が新キャンパス整備 ○桜美林大学、東京・新宿区百人町に新キャンパスを整備 ○文教大学、東京・23区(足立区)に新キャンパスを整備	
★資料	P.10
高等教育局主要事項-平成30年度概算要求-(抜粋)	
★速報 平成29年9月29日付	P.11
★コスト削減を手軽に効果的に。LED照明導入に よる電気代削減方法	P.12

Campus Management Report21

No.9

キャンパス マネジメント リポート 21

インタビュー

次世代に期待され、選択される大学へ



1.1 の改善を積み重ねて上を目指す改革を進める

工学院大学で進められていた八王子キャンパスの再開発計画が完了した。八王子キャンパス開設時につくられた施設の改築を進め、安全安心なキャンパスにするとともに、機能も一新し、この新キャンパスで学生は自らの可能性を切り拓いていく。その目指す姿について、工学院大学の後藤治理事長にお話を伺った。

学校法人 工学院大学 理事長 後藤 治氏

本学自体の社会的地位 向上へ

少子高齢化の時代でも大学が生き残るためには、端的に言えばそれぞれの大学が、少しでも社会における地位の向上をする必要があると思います。

少子高齢化で子どもが減っていくときに、何年後に何%減りますとデータが示されると多くの人はすべてが均一に何%減ると考えがちですが、実際には上位は減りません。そのため、下位は減るところか維持していけなくなり、現状維持でも下位がなくなるとつれて、地位は下がる、勝ちと負けがはっきりしてきます。それを避ける

には上がっていく必要があります。これが最も大事だと思っています。

地位を上げるとは どういうことか

本学は理工系、つまり専門性の高い大学です。この特色を活かすことであり、特色がなければ上位も目指せませんし、生き残ることもできません。それには、まず、理工系の分野を一定のスコープでみて本学の強いところを定めます。ここで本学の特色が発揮できると思うのですが、学生数を絞る国立大学は教員数も限られ、強い分野をつくってもその線はとて細いです。対して本学は、学生

数の多さが教員数の多さと多様性につながり、例えば、ある分野をスコープしたときに、関連の深い専門分野



既存15号館から中庭を挟み、新しい2号館をみる